



現代の匠たち

藝能と工藝の饗宴 2022

茶の湯と匠の文化



令和4年 9月24日(土)
 開演:13時(15時終了予定) 開場:12時
 観世能楽堂 東京都中央区銀座6-10-1
 GINZA SIX 地下3階

主催 / 一般社団法人 TAKUMI-Art du Japon
 協力 / 公益社団法人 日本工芸会
 一般社団法人 茶道文化振興会 茶道会館



TAKUMI-Art du Japon 入会のご案内

■ 当法人設立の目的

日本の伝統工芸に表れる「匠」の精神を、文化財だけでなく、日本人の生き方、あるいは先端産業の競争力という新たな視点からとらえ、その保存継承と未来に向けた発展を目的に、2017年11月30日、一般社団法人 TAKUMI-Art du Japon を設立いたしました。皆様の温かいサポートをお願い致します。

日本が誇る「匠」の技能と精神は、単に優れた文化財だけでなく、最先端技術となって現代の製品に体现されています。その繊細さ、細部も大切に作る精神、自然観が、現代も世界が称賛する日本人の生き方の軸になっています。効率を優先するグローバル化の波の前に、消滅の危機にある匠をどのように社会の中心に取り戻し、日本の競争力と自信につなげていくことができるか。私たちは以下のミッションを基に活動していきます。

- (1) 「匠」の価値を広く社会で共有し、志を同じくする個人・組織をつなぐネットワークをつくる
- (2) 「匠」の市場を活性化する（各界と連携し、若手工芸家の皆さんを応援し、「匠」への道筋をつける）
- (3) 「匠」の価値を世界に広げ、同志の輪を広げる（フランス アルザスでのプロジェクト等）

■ ACTION for TAKUMI

アクションの一つとして、2018年初頭より、伝統工芸の人間国宝を中心とする方々の生の声を伝える、月例の対談シリーズを始めました。より幅の広い分野の方々のご登壇を仰ぎ、匠の精神を生んだ日本人とは何かを、その思想や美意識から問う対談を続けています。

■ 会員へのご案内

会員には、一般会員、学生会員、匠友の会会員、法人会員、特別会員の5種類がございます。会員ご希望の方は、メール、FAX 等の方法でお申込み下さい。

対象	会員種別	会費等（暦年単位）	特典 その他参考事項
個人	正会員	5,000 円（年1回：毎年更新）	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント参加費割引 ・ イベント参加者定員超えの際の優先権
	学生会員	1,000 円（年1回：毎年更新）	
	匠友の会会員	100,000 円 / 年	
企業等	法人会員	250,000 円（年1回、2口以上）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記に加え、社員1名は会員扱いでイベントに参加可能 ・ イベントの案内パンフレットやHP に法人名やロゴを掲載

詳細は当法人のHP でご覧ください。

お問い合わせ先

一般社団法人 TAKUMI - Art du Japon

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-11-1 オランダヒルズ森タワー RoPI004 号室

Tel : 03-6318-5950 Mail : takumi.japon@gmail.com

<https://www.takumi-artdujapon.jp>



開催に寄せて

過去において幾度となく人類社会を襲ったパンデミックがそうであったように、今回の新型コロナウイルスの感染拡大は、我々の生活スタイルや発想に大きな変化を迫りつつあります。

ここで重要な役割を果たすのは、目の前で進化を続けるテクノロジーそのものの特定の専門知識だけではありません。歴史を俯瞰しつつ人間はどうあるべきかという本質的な問いに向き合い、先人が積み上げてきたさまざまな叡智を未来への羅針盤として学ぶことです。ここで得られる総合的叡智を人文知と呼びます。

この人文知の宝庫となるのが日本の伝統的な自然観や精神性です。そして

それらを効果的に把握し後世に伝える上で、さまざまな文化形態がありますが、中でも伝統工藝と伝統藝能は歴史的に重要な地位を占めています。本公演では、日本の伝統文化の中心的地位を占める「茶の湯」をメインテーマとして取り上げることで、そこに茶道具を始めとする伝統工藝、伝統藝能、建築、庭園、文学、書道、華道、香道など日本の伝統文化の如何に多くの分野が凝縮しているか、そして能や狂言でそれがどのように扱われているかなどについて、さまざまな角度から考えて頂く素材を「提供致します」。

TAKUMI Art du Japon 代表理事 近藤誠一
(元文化庁長官)



あらすじ

観世流 仕舞「頼政」

舞台は宇治の平等院。平安末期、後白河法皇の皇子・以仁王（もろひとおう）の挙兵に順じて果てた源氏の武将・頼政の生涯を語る修羅能です。合戦の経緯を語り、戦場の様子を再現し、頼政は自らの最期までを語り終え、供養を願いつつ消えてゆきます。仕舞とは、能曲の見せ所を能面や装束を着けず、紋付袴姿で語り舞うものです。

和泉流 狂言「通円」

宇治の平等院に参詣した僧が、傍らの無人の茶屋に茶湯が手向けられ、花が供えてあるのを見て不思議に思い在所の人に尋ねると、昔、宇治橋供養の折、茶を飲むと押し寄せてきた巡礼者に、茶を点て過ぎて死んでしまった通円という茶屋坊主の跡だと答える。僧が串の謎経を始めると、通円の幽霊が現れ…。

夢幻能形式で舞歌の美しさを
楽しめる作品でありながら、能
「頼政」をパロディ化しており、
狂言らしい精神も感じさせま
す。それぞれの役割が技量を発
揮してひとつの作品となる、能
形式ならではのアンサンブルの妙
をご堪能下さい。



観世流 一調一声「三井寺」

子供を人買いにさらわれた母親が都清水寺で祈っていると、夢で「三井寺へ行くべし」とのお告げを受け、三井寺へ向きます。その頃、三井寺では住職たちが稚児を伴い十五夜の月見をしていました。そこへやって来た母親は、我が子 pensando 鐘を撞き舞い狂じつには親子対面となり、連れ立って故郷へ帰ります。澄み渡る琵琶湖の水面上に満月が映る秋の情景。沈静と興奮の場を交互に配した美しい曲です。
一調声とは謡人、小鼓二人で聞かせ所を演奏します。普段の演奏では謡が主導権を握りますが、小鼓が常とは異なる特殊な演奏を聴かせます。

義太夫「生写朝顔話―笑い葉の段―」

かねてより親しい医者の子の祐仙が訪ねて来たのを幸いに、痺れ薬を入れた湯で茶を点て、それを飲ませて殺害しようと企みます。その様子を窺っていた徳右衛門は、その湯と浜松城下で買収した笑い葉を入れた湯を取り替えるのでした。
外出先から戻った駒沢に岩代は茶を勧め、祐仙が例の湯で点てる茶を飲ませようとしてしまいます。しかし徳右衛門が待ったをかけます。毒味した上でなければ駒沢には飲ませられないと言います。解毒の薬を持っている祐仙は、それをこっそり飲んだ上で自ら毒味をします。すると取り替えられていた笑い葉のために笑いが止まらなくなり、企みは失敗に終わるのでした。

茶の湯と匠の文化

演目

一、基調講演

千宗屋

茶道／武者小路千家家元後嗣

二、シンポジウム

千宗屋
室瀬和美
野村萬齋

茶道／武者小路千家家元後嗣
* 漆芸家／人間国宝
能楽師／狂言方和泉流

「聞き手」 近藤誠一

一般社団法人
TAKUMI Art du Japon 代表理事
(元文化庁長官)

休憩15分

三、観世流 仕舞「頼政」

シテ

地謡

大槻文藏*
山崎正道
角当直隆
川口晃平
山崎友正
大槻裕一

後見

四、和泉流 狂言「通円」

シテ通円

アド僧

野村万作*
野村裕基
野村遼太
野村萬齋

アド所の者

地謡

高野和憲
中村修一
内藤連
飯田豪
深田博治
栗林祐輔
大倉源次郎*
柿原孝則

後見

笛

小鼓
大鼓

五、観世流 一調一声「三井寺」

謡

小鼓

梅若桜雪*
大倉源次郎*

六、義太夫「生写朝顔話―笑い葉の段―」

太夫

三味線

豊竹咲太夫*
鶴澤燕二

*重要無形文化財各個認定（人間国宝）



観世流 一調一声



***梅若桜雪** (能楽シテ方観世流)

1948年東京生まれ。1951年、能『鞍馬天狗』子方で初舞台。1979年、梅若六郎家当主継承。1988年、五拾六世 梅若六郎を襲名。2018年、三世実を亡父に追贈し梅若家の大名跡四世梅若実を襲名。日本藝術院会員、重要無形文化財各個認定保持者(人間国宝)。



***大倉源次郎** (能楽小鼓方大倉流十六世宗家)

1953年、大倉流十五世宗家大倉長十郎の次男として生まれる。1964年、独鼓「鮎之段」にて初舞台。1985年、能楽小鼓方大倉流十六世宗家継承。著書に『大倉源次郎の能楽談義』(淡交社)。重要無形文化財各個認定保持者(人間国宝)。

義太夫



***豊竹咲太夫** (文楽太夫)

1953年8月、豊竹山城少掾に入門。竹本綱子太夫と名のる。同年10月、四ツ橋文楽座において初舞台。演目「伽羅先代萩・御殿」の鶴喜代君政岡は、師山城少掾。1966年9月、道頓堀朝日座において初代豊竹咲太夫と改名。鬼一法眼三略巻・菊畑の段の虎蔵で披露。2009年4月、切場(きりば)語りになる(重要な場を語る太夫に与えられる最高の資格)。2019年10月、重要無形文化財各個認定保持者(人間国宝)。2021年10月、文化功労者。紫綬褒章、2006年度因協会賞、2008年度(第65回)日本芸術院賞、第41回エクソンモービル音楽賞、第53回毎日芸術賞、第49回大阪府市民表彰、第39回(2019年度)国立劇場文楽賞文楽特別賞など受賞。著書に「咲大夫まかりとる」(長征社)、「近松門左衛門名作文楽考1女殺油地獄」(尾崎彰廣 共著 講談社)、「近松門左衛門名作文楽考2心中天網島」(尾崎彰廣 共著 講談社)など。作曲・作品に、近松門左衛門作「隅田川」、近松門左衛門作「今宮心中」、三島由紀夫「鱗壳恋曳網」、井原西鶴「暦」、「高尾ざんげ」など。



鶴澤燕三 (文楽義太夫節三味線方)

1977年、国立劇場文楽第4期研修生となる。1979年4月、五代鶴澤燕三に入門、鶴澤燕二郎と名のる。1979年7月、朝日座で初舞台。2006年4月、六世鶴澤燕三を襲名。大阪舞台芸術賞奨励賞、2006年度因協会賞、2012年度(第69回)日本芸術院賞、第37回(2017年度)国立劇場文楽賞文楽大賞、第41回松尾芸能賞 優秀賞、紫綬褒章など受賞。

観世流 仕舞



***大槻文藏** (能楽シテ方観世流)

1942年大阪生まれ。大槻秀夫の長男。祖父・十三、父および観世寿夫に師事。1947年「鞍馬天狗」花見で初舞台。1950年「狸々」で初シテ。1989年「卒都婆小町」、1998年「檜垣」、2007年「関寺小町」を披く。また、「刈萱」「鶴羽」「維盛」「敷地物狂」など多くの復曲能、新作能に携わる。2016年、重要無形文化財各個認定保持者(人間国宝)に認定。

和泉流 狂言



***野村万作** (狂言方和泉流)

1931年生まれ。重要無形文化財各個認定保持者(人間国宝)、文化功労者、日本芸術院会員。祖父・故初世野村萬斎及び父・故六世野村万蔵に師事。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。軽妙洒脱かつ緻密な表現のなかに深い情感を湛える、品格ある芸は、狂言の一つの頂点を感じさせる。国内外で狂言普及に貢献。ハワイ大・ワシントン大では客員教授を務める。狂言の技術の粋が尽くされる秘曲「釣狐」に長年取り組み、その演技で芸術祭大賞を受賞したほか、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、松尾芸能賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞、旭日小綬章、中日文化賞、ジャパン・ソサエティ賞等多数の受賞歴を持つ。『月に憑かれたピエロ』『子午線の祀り』『秋江』『法螺侍』『敦-山月記・名人伝-』等、狂言師として新たな試みにもしばしば取り組み、現在に至る狂言隆盛の礎を築く。近年では、「橋山節考」の再演に取り組み、大きな成果をあげている。



野村裕基 (狂言方和泉流)

1999年生まれ。野村萬斎の長男。祖父・野村万作及び父に師事。慶応義塾大学法学部卒業。能楽協会会員。3歳の時に「靱猿」で初舞台後、子方として国内外で多数の舞台に出演。修業を続け、『三番叟』『奈須与市語』を披き、「万作の会」の若手狂言師の一人として舞台を勤めている。



野村遼太 (狂言方和泉流)

1991年生まれ。野村万作の外孫。祖父に師事。早稲田大学創造理工学部卒業。公益財団法人能楽協会会員。4歳の時に「靱猿」で初舞台後、修業を続け、「奈須与市語」「三番叟」を披く。



栗林祐輔 (笛方森田流)

1977年生まれ。松田弘之 及び杉市和に師事。今までに「道成寺」「翁附」「恋之音取」等を披く。古典能だけでなく新作、演劇なども多数。



柿原孝則 (大鼓方高安流)

1994年生まれ。故 祖父・柿原崇志(人間国宝)、父 柿原弘和に師事。2000年に初舞台「薪の段」以降「獅子」「乱」「道成寺」「翁」などを披く。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。公益社団法人能楽協会会員。

出演者・演者プロフィール

* 重要無形文化財各個認定 (人間国宝)

基調講演・シンポジウム



***室瀬和美**

(漆芸家)

1950年東京都生まれ。漆芸家だった父・春二に学び、同じ道を志す。人間国宝の故・松田権六、故・田口善国両氏に師事、東京藝術大学大学院(漆芸専攻)修了。在学中より開始した創作活動と共に漆工文化財の保存活動も行い、漆・蒔絵の美と素晴らしさを積極的に国内外で発信する。日本伝統工芸展にて東京都知事賞など受賞多数。2008年、重要無形文化財「蒔絵」保持者(人間国宝)に認定。同年、紫綬褒章受章。2021年、旭日小綬章受章。現在、公益社団法人日本工芸会の副理事長を務める。作品は文化庁、東京藝術大学、国立工芸館、大英博物館、メトロポリタン美術館、V&A博物館などに収蔵。



野村萬斎

(狂言方和泉流)

1966年生まれ。祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合認定保持者。東京藝術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、舞台「敦-山月記・名人伝-」「国盗人」「子午線の祀り」など古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。各分野で非凡さを発揮し、狂言の認知度向上に大きく貢献。現代に生きる狂言師として、あらゆる活動を通し狂言の在り方を問うている。1994年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、毎日芸術賞千田是也賞、読売演劇大賞最優秀作品賞、2021年観世寿夫記念法政大学能楽賞、松尾芸能賞大賞を受賞した。世田谷パブリックシアター芸術監督を2022年3月まで20年間勤めた。石川県立音楽堂邦楽監督。東京藝術大学客員教授。全国公立文化施設協会会長。



近藤誠一

(一般社団法人 TAKUMI Art du Japon 代表理事)

1946年神奈川県生まれ。東京大学教養学科学卒、1972年外務省入省。在米国日本大使館公使、OECD事務次長、外務省広報文化交流部長などを経て、ユネスコ大使、駐デンマーク大使、文化庁長官を務め、現在は近藤文化・外交研究所代表、外務省参与。2013年の富士山の世界文化遺産登録に力を注いだ。フランスレジオンドヌールシュバリエ章受章(2006年)、2016年度瑞宝章重光章受章。2015年度日本アカデミア賞(国際部門)受賞、2017年度情報文化賞国際芸術賞受賞。

基調講演



千宗屋

(茶道家：武者小路千家家元後嗣)

1975年京都府生まれ。慶應義塾大学大学院前期博士課程修了(中世日本絵画史)。2003年に武者小路千家15代次家元として後嗣号「宗屋」を襲名し、同年大徳寺にて得度、「随縁斎」の斎号を受ける。文化庁文化交流使としてニューヨークを拠点に世界各国で活動(2008-09)。京都府文化賞奨励賞受賞(2013)、京都国際観光大使(2014年から)、京都市芸術新人賞(2015)受賞。古美術から現代アートにいたるまで造詣が深く、「千宗屋キュレーション 茶の湯の美-コレクション選-」展(MOA美術館、2017)の監修や、杉本博司「硝子の茶室 聞鳥庵」(2014-)の茶室披きおよびトークセッションなど、現代美術作家や建築家とのコラボレーション企画を多数開催。著書に『茶 利休と今をつなぐ』(新潮社、2010)、『茶のある暮らし 千宗屋のインスタ歳時記』(講談社、2018)など多数。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授、明治学院大学非常勤講師(日本美術史)。

特別展示

人間国宝の先生方による茶にまつわる工芸作品

会場ロビーにて作品を展示しております。

川北 良造 重要無形文化財「木工芸」保持者

[略歴]

1934年 石川県生まれ
1964年 日本工芸会正会員に認定
1988年 千利休手植えの沙羅双樹を以て、茶道具を制作
(京都大徳寺聚光院温存)
1990年 伊勢神宮式年遷宮 御神宝鏡宮制作
1993年 兼六園櫻木目沈金食籠 石川県より皇太子殿下に献上
1994年 重要無形文化財「木工芸」保持者に認定
1997年「木の命よみがえる・川北良造の木工芸」
文部省特別選定映画完成
1999年 紫綬褒章受章
2004年「木と生きる 木を生かす」出版
旭日中綬章受章
2009年 本願寺御影堂古材にて記念品制作
2015年 全国植樹祭(石川県小松市)にて石川県より構造華文嵌装盆を
天皇陛下に献上
北陸新幹線開業金沢駅構内パネル制作
2017年 護衛艦「加賀」構造輪花貴石象嵌盛器 寄贈
2020年 金沢港クルーズターミナル「構造波頭文パネル」制作
2022年 新石川県立図書館パネル制作

日本工芸会参与

石川県美術文化協会 副会長/輪島漆芸技術研修所 主任講師
金沢美術工芸大学 名誉客員教授/石川県立轆轤挽物技術研修所 所長

鈴木 藏 重要無形文化財「志野」保持者

[略歴]

1934年 岐阜県土岐市駄知町生まれ
1954年 朝日新聞主催第8回現代陶芸展に初出品佳作
第6回日本伝統工芸展 初入選
1961年 第10回現代日本陶芸展 第1席
第8回日本伝統工芸展NHK会長賞
1962年 チェコ国際陶芸展 グランプリ
1967年 第14回日本伝統工芸展 日本工芸会会長賞
1969年 日本陶磁協会賞
1982年 日本陶磁協会賞 金賞
1987年 芸術選奨文部大臣賞
1992年 藤原啓記念賞
1994年 重要無形文化財「志野」保持者に認定
1995年 紫綬褒章受章
2006年 旭日中綬章受章

日本工芸会参与

千利休お手植え「沙羅双樹造香合」

幅 7.8 cm × 奥 6.2 cm × 高 4.4 cm



志野茶碗

幅 13.5 cm × 奥 13.3 cm × 高 8.4 cm



鈴木 滋人 重要無形文化財「木版摺更紗」保持者

[略歴]

1954年 佐賀県鹿島市生まれ
1979年 武蔵野美術大学日本画学科卒業
1981年 家業である染色の仕事を継ぐ
1985年 日本工芸会正会員に認定
1998年 第11回MOA岡田茂吉賞優秀賞受賞
第45回日本伝統工芸展でNHK会長賞受賞
1999年「日本の工芸〔今〕100選展」(パリ)に出品
2003年 第23回伝統文化ポーク賞優秀賞受賞
2007年 大英博物館開催「わざの美-日本の工芸50年記念展」に出品
2008年 重要無形文化財「木版摺更紗」保持者に認定
2020年 東京国立博物館開催「きもの」特別展に出品

日本工芸会参与

藤沼 昇 重要無形文化財「竹工芸」保持者

[略歴]

1945年 栃木県大田原市生まれ
1975年 竹工芸を始める
1986年 日本工芸会会長賞受賞
1992年 東京都知事賞受賞
2004年 紫綬褒章受章
2011年 シカゴ美術館にて個展(米国)
2012年 重要無形文化財「竹工芸」保持者に認定
2015年 旭日小綬章受章

日本工芸会参与

[作品所蔵]

東京国立近代美術館工芸館/MOA美術館(熱海市)/シカゴ美術館(米国)/
デンバー美術館(米国)/大英博物館(英国)/メトロポリタン美術館(米国)/
ボストン美術館(米国)

室瀬 和美 重要無形文化財「蒔絵」保持者

1950年 東京都生まれ
1976年 東京藝術大学大学院美術研究科 漆芸専攻修了 修了制作大学買上げ
1985年 第2回日本伝統漆芸展 日本工芸会賞受賞
第32回日本伝統工芸展 日本工芸会奨励賞受賞
1996年 国宝「梅蒔絵手箱」(三嶋大社蔵) 復元模造制作(〜1998)
2000年 第47回日本伝統工芸展 東京都知事賞受賞
2002年 第49回日本伝統工芸展 日本工芸会奨励賞受賞
2006年 日本文化藝術振興賞受賞
2008年 重要無形文化財「蒔絵」保持者に認定
紫綬褒章受章
2019年 MOA美術館特集陳列「人間国宝 室瀬和美の世界」
2021年 旭日小綬章受章
個展9回 池袋西武・高輪会・日本橋三越・銀座和光など

日本工芸会副理事長

〈作品所蔵〉

文化庁/東京藝術大学/国立工芸館/MOA美術館/メトロポリタン美術館/
V&A博物館/大英博物館他

木版摺更紗小袱紗「菱浮葉」

15 cm × 16 cm



根曲竹野草籃

幅 26 cm × 奥 17 cm × 高 28 cm



蒔絵螺鈿雪吹「秋陽」

径 6.8 cm × 高 7.0 cm

